

佐藤 博議員 無所属クラブ

地方創生事業・活性化の政策課題への取り組み

市長職は政治家なのか行政職の延長か 市長の考えは

問

重要な政策課題の一つに地方創生事業への取り組みがある。地方創生事業とは地方が主役となり、地域の実情や潜在力を的確に捉え仕事を増やし安定した雇用の確保、人が定住し安全で豊かな暮らしができるよう知恵を出すということと考える。

市長は、事業を進める上で法律や規則、規定などの遵守にこだわった判断をする一方、市民の要望、まちの発展などを考慮した場合、俗に言う政治的判断が重要になると思う。

私の認識は選挙で身を立っている以上、政治家だと思っ反面、行政運営の最高責任者である以上、行政

職としての自覚もなければいけないと思うが、市長の考える市長職とは。

行政職であると同時に政治家の一面を持ち合わせている

答 市長

行政職は、日常業務、事務事業を円滑に進めるため職員とともに協議、決裁し、行政運営がスムーズに行くことが重要だと思っている。さらに、職員の人材育成も重要な仕事と思っている。

一方、政治家の側面は、私が掲げた政策、ビジョンに対し多くの人の協力がなくしてできないと感じており、人のネットワークづくりをすることだと思っている。

問

善太川に橋を架け広域的な開発計画を考えては

旧弥富と旧鍋田が合併したとき、筏川に橋が3本しかなく、交流するために橋をかけてもらいたいという要望があり隣村と協議し、筏川に新たに橋を架けた経験がある。

全地区が市街化調整区域である十四山地区を活性化するには、地域交通網の整備、規制緩和と土地の有効活用が大事だと思っております。公共交通機関を利用した開発（富吉駅と十四山地区を結ぶ交通体系）を考えるべきで、富吉駅の利用を中心に蟹江町、愛西市、弥富市で協議会を立ち上げ協議する考えを市長は持っているか。

今の段階で橋を架ける考えはないものか市長に話をした

答 市長

十四山地区の基本構想の柱の一つとして、三ツ又池公園を中心とする水辺環境、自然環境を守ると同時に、総合運動公園を中心とした豊かな健康づくりの環境の整備、活性化された地域の

づくりを目指していきたい。橋を架けることは、関係首長に話したが、協議会の立ち上げは、今のところ考えていない。

過疎化が進む鍋田地域の活性化対策は

問

地域の潜在力、経済効果を最優先に考えた地域創生事業の取り組みとして鍋田地域の活性化対策をどのように考えているのか。

鍋田地区、南部地区を税収を上げていく場と考えていく

答 市長

鍋田地区において一番重要視するのは、鍋田埠頭の背後地である西部臨海工業地帯を最大限活用し南部地区、鍋田地区をさらに税収を上げる場としていくことと思っている。

一方で、本市の水田面積1千600ヘクタールのうち1千ヘクタールがこの南部地区にあり農業振興地域でもある。この1千ヘクタールの農地の集約化を図り、

農地の法人化を進め、農業経営コストの削減と競争力を生み出していくような施策を応援していきたい。

農業改革により市内の専業農家数の見込みは

問

農業振興というのが、農協・農協改革により、弥富の専業農家の戸数はどのような見通しか。

農業者や農産生産法人が100戸前後と考えている

答 開発部長

22年農林業センサスでは、市内の専業農家数は114戸である。

現在、認定農業者と呼ばれ意欲的に農業に取り組まれている農業者や農産生産法人数は88戸である。

なお、今後は新規就農者や後継者になった方たちも数名あることから100戸前後の推移ではないかと考える。